

ATRV アトルブ NO. 2

2025 年
3 月 15 日
特定非営利活動
法人多摩都市構
想研究会
代表 櫻井 巖
発刊

春季セミナー「多摩散策コース」

奥多摩の酒と玉堂美術館

今年2月13日(木)、多摩の食と文化の源流を求めて、玉堂美術館(御嶽)と小澤酒造を巡ることにした。会員10名と友人4人の14人で、御嶽の美術館を目指しましたが、春一番の強風で青梅駅から先が一時運休となっていた。

青梅駅で一時間半ほど足止めを食らったため美術館を諦め、直接、小澤酒造に向かいました。小澤酒造の小澤順一郎会長のご案内で酒造内を一時間かけて廻り、楽しく含著のあるお話しを伺った。

酒造のある青梅市沢井は青梅駅より奥多摩駅より、電車の本数もコンビニも少なくなる。生活圏としては、奥多摩です。

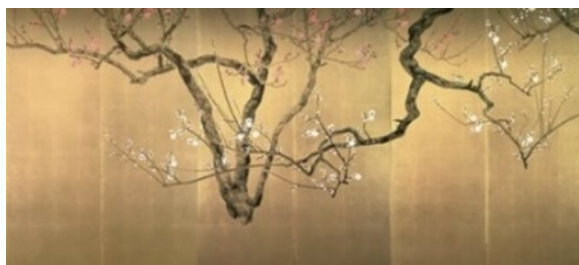


もともと浅野セメントの石灰を運んでいた路線で、なるほど地質も石灰分が多く硬水が湧き出ており、辛口の好きな江戸っ子向きの酒造りに向いているようです。酒造は元禄十五(一七〇二)年創業。詳しい内容は当会のホームページに載せます。小澤酒造には二つの井戸があり、裏の山の水と多摩川源流の水がこの酒のアイデンティティの元だそうです。酒づくりの基本や、酵母がせっせと働いてアルコールを作るお話し、大吟醸と吟醸の違い、越後杜氏の話など興味深いお話でした。今度、青梅の文化の芽生えを伺いたいですね。



第二部では小澤会長が図録で玉堂画伯の絵のタッチを説明してくださった。画伯は小澤会長のご祖父にあたりますが、画伯がどうやって円山派と狩野派を融合して玉堂画風を生んだかや、洒落つけのある画伯の人柄をお聞かせいただき大満足のセミナーになった。

(写真は、玉堂美術館と紅白梅 HPから)



花粉症対策 1

花粉症で悩まされる人が多い季節になった。政府は令和5年5月30日に、花粉症対策を閣議決定し、取り組みの三本柱を示し10年後に発生源の人工林約2割を減少させることを目標にしている。同時に企業や関係機関も協力して取り組みを開始している。

(図：林野庁 花粉対策)

1 発症・曝露対策
花粉症の治療…治療薬増産、研究開発等

● 花粉対策に資する認証制度や製品の普及・啓発

● 予防行動の周知、企業等の取組推進

2 発生源対策
スギ人工林の伐採・植替え等の加速化
スギ材需要の拡大

● 花粉の少ない苗木生産拡大
3 林業の生産性向上及び労働力の確保飛散対策

● スギ花粉飛散量の予測精度向上支援
スギ花粉の飛散防止「スギ人工林伐採・植替え加速化」「花粉曝露を軽減する働き方の推進」

● スギ花粉の飛散防止「スギ人工林伐採・植替え加速化」

● 「花粉曝露を軽減する働き方の推進」

今後、当研究会では、個人でできる対策の紹介や何故、花粉症がここまで深刻な問題になったのか、また東京都固有の課題や取り組みの現状を取り上げていきます。

花粉発生源対策

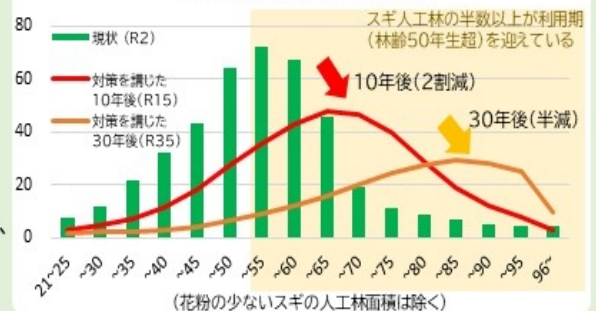
政府の花粉症対策は、

「発生源対策」「飛散対策」「発症・ばく露対策」。

林野庁は「発生源対策」として、

「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を推進し、花粉発生源となるスギの人工林を、10年後に約2割減少させることを目指し、花粉の少ない森林への転換を進めます。

スギ人工林の現状と将来



伐採・植替え等の加速化

都市周辺のスギ人工林伐採重点区域において、集中的に伐採・植替えを推進。



スギ材需要の拡大

スギを使った製品の開発や、地域の工務店によるスギの利用を促進。



花粉の少ない苗木の生産拡大

植替えに必要な「花粉の少ない苗木」の生産施設の整備や、品種開発を実施。



生産性向上と労働力の確保

植替えの促進のため、高性能林業機械の導入を支援し、建設業等と連携し労働力を確保。